経営学科　ディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）及びアセスメント・ポリシー

		DP	CP　編成方針	アセスメント・ポリシー		
第一層	A	幅広い教養と専門的知識・技能を身に付けている。	西南学院の建学の精神に基づき、西南学院大学学則第一条に定める目的を実現し、学生が卒業認定・学位授与方針に定める資質・能力を身につけることを目指して、正課においては、大学教育における共通基盤及び教養の育成のための共通科目群、学位課程プログラムの基幹となる専門科目群によりカリキュラムを編成する。 育成すべき資質・能力に照らし、その内容・順次性を吟味し、体系的に科目を配置する。なお、主に「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」の育成に寄与する科目は、「総合的な経験・創造性」に寄与する科目に先行するよう配置し、主に「態度・志向性」の育成に寄与する科目は4年間にわたって配置する。	卒業認定・学位授与の方針に示す質的水準の達成状況である学生の学修成果としての各資質・能力については、下表に定めるとおり、各授業科目の到達目標に対する学修者の到達度について実施されるDP観点別評価の結果を集約するとともに、本学が定める大学のアセスメントマップに示す各種調査などを必要に応じて用いることによって、その修得状況を把握し可視化する。 また、本学科の教育内容・活動については、把握・可視化した学修成果をふまえ、アセスメントマップに示す各種調査などを用いることで、多角的に検証する。 その検証結果は、自己点検・評価活動やFD活動において、本学科の教育改革・改善に資するよう活用する。		
	B	学びと研究の質を高めることができる思考力・判断力・表現力等を幅広く身に付けている。				
	C	地域社会及び国内外の諸課題の解決に主体的・創造的に参画・貢献することができる。				
	D	自己の成長と社会の発展のために、自律的に学び続ける態度を身に付けている。				
第二層（共通科目）					学修成果を測定する方法	主な科目
	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「知識・技能」の学修成果を測定する。		教養科目
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「思考力・判断力・表現力等」の学修成果を測定するとともに、外部検定試験や外部アセスメントテストの結果も活用する。		外国語 ﾃﾞｰﾀﾘﾃﾗｼｰ ｽﾀﾃﾞｨｽｷﾙ ﾍﾙｽﾘﾃﾗｼｰ
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。	各科目におけるグループワークや研究発表、実演等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「総合的な学修経験・創造性」の学修成果を測定する。		ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ応用
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。	各科目における小テスト、レポート、定期テスト、研究発表等によって、到達状況をDP観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「態度・志向性」の学修成果を測定する。		キリスト教学 ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ基礎 西南学院史
第二層（専攻科目）				A	各科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP 観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して企業経営に関する基礎的な知識習得の学修成果を測定する。	
	A-2	経営学分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。	商学部で取り扱う学問体系を理解し主体的に学修するため、経済社会や企業経営について複眼的に理解するための基礎部門科目を1年次を中心に配置する。	A-2	経営学の基本的な学問体系に関する知識を養成する科目において、学修者の基礎知識を問う小テスト、レポート、定期テスト、振り返りシート等によって、その学修成果を測定する。	基礎経営学
	A-3	現代の経済活動の重要な一翼を担っている企業の経営について理解している。	現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解するための経営学部門科目を主に2年次より配置する。	A-3	経営学部門科目において、経済社会・企業経営に関する理論と実態について、それらの知識を問う小テスト・レポート・定期テスト等によってその学修成果を測定する。状況により、学修者に質問紙調査を実施し、学修成果を測定する場合もある。	経営管理論
	A-4	戦略・組織・情報技術・国際などの観点から多面的に経営を理解することができる。	アプリケーション、データベース、ネットワークについて基礎的な技法を修得し、経済社会や経営の分析に活用するための経営情報学部門科目を主に2年次より配置する。	A-4	経営情報部門科目において、経済社会・経営分析に関する基礎的な技法について、それらの知識・技能を問う小テスト・レポート・定期テスト等によってその学修成果を測定する。状況により、学修者に質問紙調査を実施し、学修成果を測定する場合もある。	情報システム論
				B	経営学部門科目や経営情報学部門科目の周辺的な学問領域の科目における小テスト、レポート、定期テスト等によって、到達状況をDP 観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して当該領域の知識ならびに思考力・判断力に関する学修成果を測定する。	
	B-2	経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。	現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解するための経営学部門科目や、データベース、ネットワーク、シミュレーションについて基礎的な知論と技法を修得し、IT社会や経営の分析に活用するための経営情報学部門科目を、主に2年次より配置する。	B-2	経営学部門科目や経営情報学部門科目の周辺的な学問領域に関する知識を養成する科目において、主に基礎知識を問う小テスト、主に思考力・表現力を問うレポート、主に思考力・判断力・知識を問う定期テスト等によって学修成果を測定する。	流通総論
				C	各科目におけるグループワークや研究発表等によって、到達状況をDP 観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して学修成果を測定する。グループワークや研究発表等の成果物はレポート・報告書・論文・発表等からなり、それら成果物から総合的な学修経験の程度や創造性などの水準を判断する。	
	C-2	経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。	高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を修得するための経営学部門・経営情報学部門科目や、グローバル社会でのビジネス・コミュニケーション能力を高め、ビジネスでの問題解決に向けたアイデアを立案・実行する創造性を修得するための研究・応用部門科目を3年次及び4年次を中心に配置する。	C-2	経営学部門・経営情報学部門科目の知識を応用し研究を実施する専門的な演習において、学修者のレポート・報告書・論文・研究等の発表・演習への参加態度によって学修成果を測定する。	専門演習Ⅰ
				D	各科目におけるレポートや研究発表等によって、到達状況をDP 観点別に評価した結果を集約し、学年別及び全学年を通して「専門知識に基づく自律的な調査・探究」の学修成果を測定する。	
	D-2	志高くビジネス・パーソンとして広く社会へ貢献することができる。	ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、専門知識に基づき解決案を導き、新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになるための研究・応用部門科目を3年次及び4年次を中心に配置する。	D-2	卒業論文／卒業研究において、先行研究の精査・仮説の検証とその方法・主題の独創性・学術的意義をふまえ、学修成果を測定する。	卒業論文